



現場改革から未来の土循環へ。 地域インフラを支える エンドウの挑戦

★[代表取締役社長] 遠藤 大輔

代表取締役に就任して以来、私が最も注力してきたのが「現場に根ざしたDX（デジタル推進）」です。給与計算の基幹システムを新しくしたことにより、これまで5日間かかっていた給与計算が1時間弱へと短縮。さらに、工事予算の精度を飛躍的に高め、原価管理と営業利益率の大幅な改善を実現しました。また、現場での電子黒板導入や写真のリアルタイムクラウド共有により、撮影の手間やデータ整理の時間を一気に削減。ベテランの属人化を防ぎ、若手が早い段階から写真管理などの業務に挑戦できる環境も整いました。こうした作業効率化の積み重ねは、残業削減はもちろん、年間休日を89日から115日へと増やす成果にも繋がっています。「しっかりと休み、適切に成果を還元する」。社員が当たり前に働きやすい環境を整えることこそ、経営者としての私の役割です。

「いいねがもらえる仕事をしよう」というスローガンのもと、お客様、地域、家族、仲間、そのすべてから「いいね！」と応援してもらえる仕事を何より大切にしています。この「周囲から応援される仕事かどうか」こそが、私たちのすべての行動や判断の物差し（基準）です。

一方、大切な社員の命を守る「安全管理」については、どれだけ周りから「やりすぎだ」と嫌われようとも、妥協するつもりはありません。専門の安全コンサルタントによる現場パトロールや安全教育を毎月実施し、リスクの早期発見と是正を徹底しています。

そうして安全な土台を整えた上で、私たちは社員一人ひとりの「挑戦」を応援しています。当社は未経験で入社する社員がほとんどで「元パン屋さんや元陸上自衛官など経歴も様々ですが、「今はできなくても、一生できないわけではない」と考え、新しい一歩を踏み出すチャンスをつくっています。

現場には「二つと同じ状況がありません。だからこそ「もっと知りたが」という好奇心を大切に、自分の頭で考えて柔軟に動ける人が、伸び伸びと育っていく環境づくりを大切にしています。

建設業で
かがやく！

エンドウ

上下水道の設計・施工のプロフェッショナル「株式会社エンドウ」。
今回は、代表取締役の遠藤社長に
社内改革の歩みから現場への想い、
目指す循環型社会の未来について取材してきました。

Vol.3

「いいねが
もらえる仕事」を胸に。
現場の安全と
人の成長を守る経営



「県中改良土センター」が
切り拓く土の循環社会

静岡での土砂災害や、違法盛土のニュースをきっかけに立ち上げたのが「県中改良土センター」です。工事の際に出る余った土（建設発生土）は、どこかに埋めて捨てるだけではいつか捨て場所がなくなってしまうんです。だからこそ、土を捨てるのではなく、もう一度きれいに整えて「次に使える資源として社会に戻すルート」を作る必要がありました。土地の確保や公的な手続きなど幾多の壁を乗り越えて実現した本施設は、最新設備のもと、建設発生土の異物を選別・改良し、再び現場で役立つ高品質な「改良土」へと再生させます。土の処分量を減らし、輸送コストやCO₂もカットするこの取り組みは、郡山市ならびに福島県全体の持続可能な街づくりに不可欠です。今後は官民連携による水道事業の包括的な運用も見据え、「あらゆる埋設工事に対応するエンドウ」として、資源とインフラが豊かに循環する未来を目指していきます。



郡山市中田町にある「県中改良土センター」



株式会社エンドウ

〒963-0115 郡山市南1丁目22
TEL.024-983-1201
FAX.024-983-1202

エンドウってどんな会社？
のぞいてみよう！

HPは
こちら



インスタは
こちら



arukuの
ショート動画でも
チェック♪

